

第2回名古屋市次期総合計画シンポジウム 防災・感染症対策を中心に

日時：令和5年10月14日 土曜日 午後2時から午後4時40分頃
開場：伏見ライフプラザ5階 鯨城ホール

司会

みなさま、こんにちは。本日は、名古屋市次期総合計画シンポジウムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日司会を務めさせていただきます黒田ひとみと申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日のプログラムをご案内します。

まず、名古屋市次期総合計画中間案の紹介動画をご覧ください。次に、名古屋市長よりご挨拶を申し上げます。続いて、名古屋大学名誉教授 福和 伸夫（ふくわ のぶお）様より基調講演をいただきます。その後、休憩の時間を設けたいと思います。休憩後は、認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事 栗田 暢之（くりた のぶゆき）様のファシリテーションのもと、福和様、名古屋市防災広報アンバサダーのSEAMO（シーモ）様、OS☆Uの夏川 愛実（なつかわ あみ）様、香田 リン（こうだ りん）様によるトークセッションを行います。最後に、次期総合計画中間案に対するみなさまからのご意見をうかがう時間を設けたいと思います。

終了時刻は16時15分ごろを予定しておりますが、途中退席や再入場も可能です。また、本日会場にお越しのみなさまにお配りした封筒の中には、アンケートと名古屋市次期総合計画中間案に対する意見用紙が入っております。

本日のシンポジウムはオンラインでもご覧いただいておりますが、配信中の動画の概要欄には、アンケート回答フォームと中間案へのご意見募集フォームへのリンクをご用意しております。

本日の公演内容や次期総合計画についてのみなさまのご意見をぜひお聞かせください。なお、ご意見募集フォームからいただいたご意見は、中間案に対するご意見をうかがう時間に会場でご紹介する場合がございます。

それでは、7月31日に公表されました、名古屋市次期総合計画の中間案を紹介する動画をご覧いただきたいと思います。この動画は、一見難しそうな次期総合計画中間案について、BOYS AND MENの本田 剛文（ほんだ たから

み)さんと本日トークセッションにも参加されます OS☆Uの夏川愛実さんと一緒に勉強していく内容となっております。それではご覧ください。

(0:03:23)

名古屋市次期総合計画中間案紹介映像上映

司会

いかがでしたでしょうか。次期総合計画中間案の概要について、ご理解いただけたのではないかと思います。

次に、名古屋市長河村たかしよりご挨拶申し上げます。

(0:24:05)

名古屋市長 河村たかし

はい。それではおいでいただきまして、サンキューベリーマッチということでございますが。まあ、なんか、前は区ごとに全部やってましたけど、項目ごとにやると変わったんだな。そういうことで、今日は防災と感染症ということでございますので、ちょこっとそこらへんのところ、お話をしていきたいと思います。その前に一言言っというてちょっと言っというたのは、名古屋は500円がん検診というのやっておりますね。全然関係ないですけど、必ず言ってちょっと言われておりまして、500円でがん検診が受けられますので。特に女性の方は早く見つかる治療率が非常に高いということだもんで。今のところ5倍ぐらいになりましたけど、全女性の数、と言っても、何歳か以上ですけどね、確か。まだ半分ぐらいでございますので、ちょっと頭に置いていただいとということでございます。

それから、防災のほうは、ご承知のように、私、伊勢湾台風体験しとるでね。小学校5年の時に、本当に。伊勢湾台風の記念碑というか、慰霊碑は、ちゃんとやらなあかんと言っというたよ。やれせんもんだで。これは大きいですよ。災害対策基本法もできましたね。伊勢湾台風を受けてできたんですから。5000人ぐらいの方が亡くなってますわね、名古屋だけじゃないけど、全体で。とにかく、あのことを思うと、やっぱり情報というのは大変重要なもんで。あの日はまあ、全然そんな話はなかったわね。ほんで、うちの親父とおふくろ、両方亡くなりましたけど。親父が、うちは古出来町で木造のうちだったんですけど、わっという、風が来て、瓦が飛んでくるやつで、雨戸が飛んできそうになりましたして、これは釘で固定せなあかんということでですね、親父が出てって、釘で、雨戸を打ちつけとった。そしたら、おいおいって大きい声が、親父のするので、どうしたんだって言ったら、打ちつけたもんだで自分で入れんような

ってまってですね。本当ですわ。慌てるんですね、ああいうのは。で、死んだおふくろが、あんたは本当にとろいねって言ってました。小学校5年の頃ですけど。その次の日の朝がものすごくいい天気だった。あれはすごかったですよ、本当に。朝、土曜日だったで、休みだったか知らんけど。旭丘小学校という山口町の公立の小学校行きましたね。すごい青空です。まさか5000人もですね、亡くなられたということは全然想像できなんだし。ちなみに、原爆のあった8月6日、長崎の原爆の日も、次の日はものすごい青空です。これはちゃんと調べたの。だで、そういう人間の不幸とかそういうのに関わりなく、なんていうのかね、運命というか自然というか、大変残酷なもんです。ということでございますので、名古屋で言いますと、特に、防災のほうで言うと、堤防がありますけど、あれより1滴水も中に入れないという対策をしております。要するに、伊勢湾台風と全く同じ規模の台風が、同じように1番高潮の時に来たとした場合ですね、一滴の水も堤防の中に入らんよう。前から言っていました。この間、役所どうだ、言ったら大丈夫ですと。役所が大丈夫です言うのは大体危ないんです。太平洋戦争だって、全然違うじゃないですか。ひどい話でしょ、結局。天災もいかんですけど、人災の方が怖いです、実は。過去の世界史をちょっと勉強すれば分かります。人災のひどさという、人間というのは残酷なもんだということでございます。ということで、特に港のほうの方には、当然ながら非常に重要なことです。それから庄内川の防災、水に対する能力を上げること。どうもね、大阪の淀川、東京の江戸川、荒川より庄内川のほうが劣るとれせんかなと思われますね。なんでか言うと、明治時代に尾張藩ちゅうのは、薩長土肥にどえりゃー、嫌われとったんです。知らんでしょ、あんまり。これは重要な話ですよ。まあ、ということもあって、そもそも、庄内川の能力を上げないかんということ、熱心にやっております。

それからあと、ウイルスの感染症ですけど、これは誰も褒めてくれへんけど、名古屋は素晴らしかったと思いますよ。もう何年かになりますけど、初め出た時に、まだ相当早いうちから名古屋出ましたよ、実は。その時に、途中でね、空気感染になったと言われとったんだけど、それまでは、やっぱり接触感染じゃないかということで、感染症対策の1番基本は、やっぱり隔離することなんです。柔らかい隔離政策、これ保健所が、どえらけにゃー、頑張りましてですね。いっぺんに、ものすごい多かったんですけど、強力に抑え込みましたね。いうことをやりましたけど、途中から、どうも空気感染じゃないかというような話になって。ワクチンもね、ワクチンと薬ということになりますけど、ワクチンも、相当丁寧なやり方をしております。この間、メッセンジャーRNAというのが、ノーベル賞とったもんね、私もびっくらこきましたけどね。あれについては、色々ご意見があり、私は、打て打てどんどんじゃないんですよ。他のワ

クチンは名古屋は日本一進んでおります。年食った人はぜひ、带状疱疹の、あれは打ったってちょうよ。わしも打ちました。高いほうのやつがよく効くと言われております。半額補助で1万5000円だったかな。いうことでございまして、あとの、いろんなワクチンについては非常に名古屋進んどるんです。いろんなこと言われますけど、しかし、結核というものがですね、人類がどれをどれだけ苦しめたかということがあって。有名なとこだと、正岡子規とか樋口一葉とかですね。うちの親父の弟も結核で死んどりますけどね。あれについてはBCGというのがありまして、いうことでございまして。水疱瘡とかおたふく風邪とか、名古屋は多分日本一だと、厚生省をリードしてるときとは思いますが、このコロナのやつは、ノーベル賞とったもので、あんまりちょっと言いにくいですけど、なかなか問題があらへんかというところでございまして、丁寧にやっております。だから、皆さんにもすぐ接種券が行かずに、まずどうしますと聞いてですね、それでも打ちたい方は打ってちょうだいと。わしも科学者じゃないもんでね、そこははっきりしとかないかん。やっぱ効くという人も相当になりますが、しかし、打てば打つほど危ないという人もあるんです。ということで、まあ丁寧に見ていただいたと。これは日本中で名古屋しかありませんけど、ワクチン打って調子の悪なった人、ワクチン後遺症と言いますけど。これに丁寧に対応しとるのは名古屋だけです。看護婦会の方がどえりゃー応援してくれて、身体がだるいとかね、大変な苦労の方みえるんですよ。病院行ってもね、よう分からせんもんだで。あんた精神的におかしいじゃないかぐらい言われると結構あって。名古屋はまず、今日、電話がついておりませんけど、ホームページ見てもらおうと、ワクチンの副作用の電話受付窓口があります。終了ですって、書いてきたもんでよ、やめなあかんけど。まあ、そうやっていきますと。で、看護婦会がプロですから、反応して、それを医師会も、えらい協力してくれてですね、名古屋の医師会が。そこへつなぐということでやりかけて、2千何百件なってますからね、もう既に。という対応をしておりますんで、まあ、ぜひここらへんのところは、泣き寝入りせんように、体の調子が悪かったらね、ワクチンを打って。ようわからんですよ。コロナ後遺症とワクチン後遺症っていうのは区別がなかなか難しいというところでございまして、泣き寝入りせんように、対応させていただいてるというところでございまして。

そんなことで。はい、じゃあ、これでやめときますけど、ぜひ、いろんなご意見あったら出していただきたいと思います。サンキューベリーマッチ。

司会

河村市長、ありがとうございました。河村市長はここで退席いたします。

続きまして、本日のシンポジウムのテーマ「防災・感染症対策を中心に」に基づき、「温故知新で考える名古屋の防災 ～産学官民の連携で南海トラフ地震を乗り越える～」と題しまして、名古屋大学名誉教授 福和伸夫様にご講演いただきます。福和様は建築耐震工学、地震工学、地域防災がご専門で、あいち・なごや強靱化共創センター長を務められるなど、さまざまな機関でもご活躍されています。

(0:34:57)

名古屋大学 名誉教授 福和 伸夫氏（以下、福和氏）

もう始めます。

司会

はい、承知いたしました。では、お願いいたします。

福和氏

だいぶ押していて、ご挨拶が長かったので、ぱっぱぱっといきたいと思います。

こんなタイトルでお話をしたいと思いますけども、これは東山公園のスカイツーから西側を見た写真です。馴染みのある風景ですけども、これを見て変だなと思われる方は素晴らしいと思うんですが、どうして1番低い海拔ゼロメートル地帯のお隣に山があって、その間に川が3本流れているんだろう。単純に考えると変なんです。

どうしてかという、ここに断層があるからです。ここの断層が何回も何回も地震を起こして、向こう側が隆起したのが養老の山で、右側の方が沈降して出来ていたというのが濃尾平野です。多分2000回ぐらい地震を起こしていると思います。そのおかげで3000メートルぐらいのギャップができました。

ですから、ここは壁のような山なので、滝があるわけです。で、西がどんどん沈降していくから、庄内川も木曽川も東から西に流れていって南に下ってくるというような地形的特徴があります。で、ここは大体3000メートルぐらいあり、ここは昔から使ってた場所で、お城もそれから神宮もここに 있습니다。昔はここに16万人ぐらいしか住んでなかったんですが、名古屋市さんが頑張りすぎちゃって、230万人も集めるという馬鹿なことしちゃったので、結果として危険なとこにまちを広げざるをえなくなったっていうことになります。元々この駅なんですけども、この駅は蒸気機関車の時代の駅なので、嫌われ者だからここに 있습니다。昔の人にとって、煙を吐いたり火の粉を吐いたりする怪物のよううるさいものは来てほしくなかったわけです。で、最悪の場所に

駅ができ、そのことを忘れちゃったアンポンタンがニョキニョキと馬鹿なものを造ってきたっていうまちを作りました。あまり良くありません。

(0 : 37 : 32)

どんなふうにして、今のような地形が出来ていったかは、簡単に実験で確かめられるんですけども、ココアと小麦粉を、横からぐぐぐっと押していくと、左側が盛り上がり、ここに断層がいっぱいできます。これを 2000 回ぐらい起こすと、こういう地形になります。

そしてこの駅はどんなふうな場所だったかという、これは笹島に駅ができた時の様子ですけど、沼だらけなんです。だけどこれをアスファルトで覆っちゃおうとわかんないので、皆さん素敵だなと思うようになったと思うんですが、僕は東京へ行くとき以外はなるべく名古屋駅には近づかない。よく揺れるので。そもそもこの場所とこの場所とでは揺れは震度が 1 個違います。震度が 1 個ぐらい違うっていうことは、本当は建物の強さは倍以上にしないといけないんです。こちらに造るときは。だけど、この国の人たちは法律さえ守ればいいという国民になってしまったので、自ら敵の強さを考えなくなったから、同じものを作ってへっちゃらでいます。それは本当は変なことです。

孫子の兵法が思い出されます。彼を知り己を知れば百戦危うからず。敵のことを知らずして法律さえ守っていればいいというまちづくりをしていたら、当然ここから向こうはズブズブだからまずいわけです。だけど、こっちに住む人たちも敵は強いということを知って対策をしていれば敵は全然怖くない。そういうようなことが名古屋市民にできるかどうかというところがポイントであります。行政の人たちは今みたいな本当のことは教えてくれません。困るからです。

(0 : 39 : 23)

そして、かつては全部海でした。だから一宮に真清田神社があり、この枇杷島のところに国府宮神社があり、この蓬萊島と呼ばれていた熱田大地に熱田神宮があり、一宮、二宮、三宮あって、ちゃんと島の上にあります。津島神社もちんちんとあります。だから、住むんだったら神社のお隣です。そうじゃないこの青いズブズブしたところに住むのは得策ではありません。

もう当たり前のことなんです。で、この場所が徐々に徐々に陸化してきました。北側から柔らかい土砂を木曽川、長良川、揖斐川、庄内川が運んできてくれるので、陸化していきました。で、1 回前のさっきの養老の断層の地震がこれです。ついこの間「どうする家康」で現れた地震です。

天正の地震という地震が養老桑名四日市断層がずれ動いて起きた地震です。こ

の地震で大垣城が潰れました。大垣城には秀吉の家康を攻める兵が集結しようとしていた。だけど、大垣城潰れたおかげで散り散りになってくれて、家康は生き延びて、おかげで皆さんこれを楽しく毎週見てるわけです。

実はこの天正の地震は、清州城も大きく損壊しました。清州城が大きく損壊してこれじゃダメだと家康は考えたので、1610年に「清州越」を決断し、ズブズブの場所にあった清州城をやめて、熱田大地の北西端に城を構えるという英断をしたわけです。これはだから日本で1番素晴らしい震災前の高台移転なわけです。で、西北端の清州櫓からは、全部が見えるわけです。北と西側が。だから、秀吉勢がやってくるのはすぐにわかるから、これ、鉄壁なんです。で、北側は矢田川が削った崖です。土井下の所の崖ですね。西側に堀川を作ったので、北と西からは攻められないので、南と東を守ればいいっていうことで、この辺りに城下町と寺町を作ったっていうことになります。私、ちっちゃい時は、実は市長と同じ小学校の出なので、この辺にいたんですけども、やっぱり昔ながらの武家屋敷が残ってるなという感じはします。

(0:42:16)

で、このまちは2回大火に見舞われるわけです。で、この火事で、焼け止まりを作らないといけないと思って作ったのが、東西の広小路通と南北の四間道です。だから、このまちは防災都市なんです。おかげで、1707年の過去最大の南海トラフ巨大地震である宝永の地震の時この台地の上は無傷。言いにくいんですが、北側と西側はボロボロ。それは当たり前なわけです。敵が強いんだから。

この後、実はこの49日後に富士山が噴火したり、3年前に関東地震が起きたりしているので、実はこういった出来事の後、元禄時代が終わっちゃって、非常に貧しい享保の改革が行われたわけですけども、その時、我が地は宗春の時代なわけです。宗春は、この広小路で、芝居小屋を建てたり、様々な文化・伝統を作ってくれた。それだから今、名古屋は京都と並ぶ文化・伝統のまちであるってことになります。

で、その後、1800年代に安政の地震というのが来て、江戸が終わります。さらにその後来たのが東南海地震で、この東南海地震の後、戦争に敗れるわけです。理由は後で申し上げますけども、戦争に敗れた後、いち早くこの地は戦災復興に成功します。どうしてかということ、戦争の前から土地区画整理事業を石川栄耀たちと一緒にやっていて、それは、関東地震に対する学びを我が地はしていたので、いち早く都市計画を早めに作っていたわけです。

戦後もいち早く都市計画決定をしたので、GHQに邪魔される前だったから、100メートル道路が縦横に作られるという日本一のまちづくりができてるわ

けです。こういったことを意外と名古屋市役所の人もあんまり知らないのでも
ずいんです。

チャラチャラしたことばかり考える人が増えてるのはよくないことで、本当
に 100 年、200 年、300 年持つまちを作るにはどうすればいいかっていう
ことが、どのぐらい総合計画の中に魂としてこもってるかは、そのうち聞かな
いといけないと思っています。

(0 : 44 : 47)

日本ってもう学者もダメなので、縦割りなんです。特に教育が縦割りなんで
す。

その結果、何が起きちゃったかという、歴史教育が偏ってるんです。本来は
歴史教育の中に災害の歴史が入ってないんですけど、除外されてます。

過去のこの青色の歴史しか僕たち習ってないんですが、赤、緑、青、それから
黄色、これ災害の歴史です。感染症の歴史です。これ入れて見ると歴史感が全
然変わります。どうして大正デモクラシーが敗戦に行ったのか。それは、関東
大震災、それからスペイン風邪、東南海地震みたいなものなわけです。どうし
て一気に幕府が終わったか。黒船がやってきた翌年に伊賀上野地震、東海地
震、南海地震、翌年江戸直下地震、翌年江戸の大暴風雨、そして、コレラの大
流行。もう無理なんです、幕府では。どうして元禄が終わったか。元禄の関東
地震、南海トラフ巨大地震、49 日後の富士山の噴火、翌年の京都の大火。単
純なんです。自然災害によってこの国の歴史は動いてきてるってことをみんな
忘れちゃってるんです。次に南海トラフ地震が起きると、確実にこの国は歴史
の転換期です。だって日本の半分がやられるんですから。だけど、さっきのビ
デオの中には南海トラフ地震って一言も出てないんです。いいんだろうかって
思うわけです。だってもうこれから必ず来るのに。500 年に 1 回、東日本大
震災と感染症と南トラと富士山と首都直下地震が重なる時が今まではあったん
です。9 世紀と 15 世紀というふうに見ると、9 足す 6 が 15、15 足す 6 は
21 世紀で、確かに今、東日本大震災が来て、新型コロナウイルスが来て、も
うすぐ南海トラフ地震と首都直下地震が来ることになっていて、南海トラフ地
震で富士山のマグマ溜まりが揺さぶられれば富士山だっていったっておかし
くないって、これ相当いかげわしい歴史観ですけども、でも全く間違ってるとも
言いにくいわけです。だけど、こういったことを教育で受けてないので、誰も
こんな想像力を持っているような国民がいない。これ、やばいことでもありま
す。

(0 : 47 : 30)

1 回前の歴史をちょっと紐解いてみると、明治になって 20 年経って、大日本帝国憲法ができ、東海道線が全通します。20 年で近代化に成功したわけです。その時からいやらしいことが起き出します。熊本の地震、直後、この地で 7000 人が命を落とした地震が起きます。当時の人口は 3 分の 1 ですから、今の。2 万人を超えていて、東日本大震災より圧倒的にこの国にとってダメージだったんです。だけど、今日ここにいらっしゃる方の中で、濃尾地震のことをちゃんと勉強してる人がどれぐらいいるか、ちょっと不安です。だって、教えてくれてないんだもん、濃尾地震のことを。学校の歴史で。この地の歴史なのに。そして直後に北海道で M8 の地震が起き、東京でも地震が起きる。1894 年といえば戦争を始めた年です。どうして戦争が始まるんでしょう。世の中が、社会が疲弊するからです。それには災害も関係します。そして、戦争のさなか、地震。戦争が終わって 2 万人が命を落とす地震。誘発地震。もう 1 回戦争始めます。連合艦隊がバルチック艦隊を破ってなんとか勝ち戦ですけど、日本海大海戦の 5 日後、芸予地震が起きて呉の海軍基地がやられます。これ、5 日間が逆だったら皆さん今頃、ロシア語がペラペラです。地震ってそういうもんなんです。

さらに地震が来て、韓国併合、噴火、地震、第 1 次世界大戦。これまで日本は借金しまくってたんですが、第一次世界大戦の戦争特需でめちゃくちゃ金を儲けたので、日本は債務国から債権国に代わりました。だから大正デモクラシーが始まったわけです。でも、この頃からおかしくなる。東京が台風で高潮、水没。これ過去最大の高潮です、東京での。スペイン風邪で国内で 40 万人命を落とす。今でいうと 100 万人です。さらに、北海道で M8 の地震が起き、原敬が暗殺されます。総理大臣。そっくりじゃないでしょうか。風水害が来て、感染症が来て、地震が来て、総理大臣が亡くなる。そういったところで、東京周辺で 3 連発で M7 の地震が 21 年、22 年、23 年と起き、そしてとうとう 23 年にドーンときた。10 万 5000 の命を失い、国家予算の 4 倍弱の自費、お金を失った。この国もう持たないわけです、首都東京もなくして。さらに地震、治安維持法、噴火、地震、金融恐慌、地震、満州事変、地震、犬養毅暗殺、地震、国際連盟脱退、大火、台風、クーデター。こういうもんなんです。

(0 : 50 : 49)

いつもそうなんです。2 回前も 3 回前も。どんどんどんどん地震は重なってきますから、どんどん社会が苦しくなっていって、日中戦争を始め、国家総動員法を制定し、大水害がやってくる。で、戦争始めちゃったわけです。アメリカと。で、ミッドウェーで負けた直後、鳥取地震が来て、とうとう東南海地震が来る。南海トラフ地震です。この地震によって、三菱の飛行機工場、それから

中島飛行機の飛行機工場が潰れて、飛行機は作れなくなる。日本の飛行機の多くはここで作ってました。翌週、12月13日、今の名古屋ドームのところを大爆撃があるわけです。最初の本格的空襲。僕の小学校は、その時の銃弾の跡がいっぱいありました。同じ日、東洋一の動物園の、東山動物園の猛獣は全部射殺。さらに1カ月後の1月13日、三河地震が追い打ちをかけて、名古屋の子どもたち、疎開してたんだけど、寺が潰れて多くの人たちが命を失う。ほんとにここで降参しなくちゃいけなかったんです。だけど、当時の政治家がだらしない。で、情報統制して、地震があったことを隠す。そのまま戦争を続けて、失わなくていい命をたくさん失いました。東京大空襲で10万、沖縄戦で24万、広島と長崎で23万、ボロボロになって敗戦。敗戦1か月後、枕崎台風が広島を直撃。3000人が命を落とす。さらに南海地震、飯田の大火、東京カスリーン台風で水没、最後が福井地震。これが1回前のシリーズなんです。常に100年に1回ずつこういうシリーズがやってくるのに、日本人は誰もこういうことをちゃんと考えようとしません。見たくないことは見ないからです。それが人間の性癖だから。そして、どうして今があるかというと、朝鮮戦争が始まってくれたからだけです。朝鮮戦争で、戦争特需で特にこの地の産業が復活した。けども、地震が起き、台風が来たわけです。特に伊勢湾台風で5000人、命を落としたっていうことは非常に致命的で、当時の国家予算に対する比で言うと、東日本大震災よりも大きなダメージなんです。

(0:53:36)

だけれども、先ほど市長が言ったように、この地の人たちはほとんど伊勢湾台風のことをちゃんと勉強しようとしません。もっとひどいのは、東南海地震と三河地震のことが小学校、中学校、高等学校で一言も教えられてない。必ずもうすぐ来るのに、というのが本当は僕たちの姿なわけです。こんなこと聞いちゃったら焦っちゃうわけです。僕は焦りまくってるんです、今。もう、残り時間足りないの。これが100年前に起きた様子です。この100年前以降、これだけ日本M8クラス以上の地震が起きてるわけです。この離れたとこの4つ除いて、これ11個ありますから、9年に1個、M8クラスの地震が来るわけです。もうすでに1回前から13年も経っちゃった。これ、どう見たって1番起きてないのここなわけです。こっちはいっぱい起きてんですから。これ、いつ来るかはわかりません。でも、当然そんなに先じゃないようにも思いません。当然、このまちはこれが来たって市民が困らないようなまちにすることが大前提なわけです。

チャラチャラしたことを考える前にやらなくちゃいけないことは、市民の命を守ることなわけです。と思うと、僕はちゃんと地震対策はした方がいいと思ひ

ます。

(0:55:05)

関東地震も大いなみんな勘違いをしています。本当は神奈川の地震なのに、みんな東京の地震だと勘違いしてます。圧倒的にたくさん壊れてるのは神奈川です。神奈川は東京の3分の1しか人口ないんです。だから、神奈川は東京の7倍家が壊れたわけです。だけど、何が起きたかという、東京は1軒家が壊れると7軒燃えちゃったんです。神奈川は0.5軒しか燃えない。千葉に至っては0.03軒しか燃えないんです。これは何かと言うと、まちづくりがいけない、ズブズブしたところに家屋を密集させたからだけです。家屋を密集させるから、ちょっとした災害だったはずなのに7万人も死んじゃったというようなことになったわけです。これは人災です。天災ではありません。1番ひどかった横浜。今年100年なので、防災国体が横浜であって、私、あのハイレベルセッションの取りまとめ役だったので、横浜ちょっと見ようと思って、横浜行って、100年前の震災を乗り越えた建物の写真を撮ってきました。この4つの建物が関東地震を乗り越えた建物。単純です。壁だらけです。背が低いんです。チャラチャラしたガラスだらけの建物なんて絶対ダメです。だけど、法律は守ってるんです。法律を守ることと、本当に社会を守ることとは意味が違います。

これも生き延びたわけです。これ設計したの内藤多仲。さて、内藤多仲が設計したこのまちのシンボルを知ってますか。あ、えらいえらい。今言ってくれた人教えてください。素晴らしいテレビ塔です。重要文化財。名古屋市民としてテレビ塔の設計者を知らないとは。こら！って怒りたくなります。

内藤多仲という人が日本で初めて耐震設計した建物が生き延びたわけです。だから翌年、耐震規定っていうのが、市街地建築物法っていうのに規定されたってことになります。

壁が多い建物がいいっていうことが分かったので、5年後に作った神奈川県庁も、それから、この横浜地方気象台も壁だらけなわけです。これ、明治村にあるフランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテル、玄関が今、明治村にありますけど、これは9月1日の日。その日にオープニングパーティーやってたんです。で、潰れなかった。壁だらけだから。だから、この場所が、この後の関東大震災の後の復旧の拠点になったんです。

だから、わが地の市役所も県庁も壁だらけなわけです。この壁だらけの建物だったから、東南海地震を乗り越えてるわけです。ただ、こっちは余分な時計台があるから、実はここの下は結構やられたんですけども、時計台がなければ見事に乗り越えてました。

(0:58:19)

それに引き換え、この道路を挟んだ側のやつは、なんだか見てられないような建物ばっかです。本当にそれでいいんだろうかって思ったりするわけです。もうちょっと変なことを言っておきますと、当時の建物は壁だから、壁だらけだからこういう揺れ方なんです。だから、地面の揺れも建物の揺れも同じです。当時、耐震規定は建物の10パーセントの力を横にかけて、安全率3にするって言ったので、要は300ガルの揺れに対して安全性を確認するっていう設計法なんです。で、どうして300ガルにしたかというと、東京本郷の東大の揺れが300ガルぐらいだった。だけど、本郷なんて揺れてやしないんです。下町はめちゃくちゃ揺れてんです。横浜は遥かに揺れてんです。300ガルの地盤も300ガル、建物も300ガル。硬いから。実は今も同じなんです。今は柔らかいんです。建物は300ガルだけど、地盤の揺れは100ガルぐらい。だから、みんな今の方が安全だよっていうけど、実は嘘ばっか。建物が無損傷というレベルは、昔は地盤が300ガル。今は地盤は100ガル以下。柔らかいから。その代わり今は、空間は残してあげる設計をしてるわけです。建物は壊れるけど、空間は潰さなくて、柱は粘ってくれる。こういうふうには揺れるけれど空間は残るよという設計をしてくれてる。

だけど、柱は損傷するんだから、使い続けられない建物を今作っている。気を付けてください。壁が多い建物は震度7でも使い続けられますけど、壁が少ないガラスっぽい建物は実は震度5くらいで使い続けられません。でも、そういうことを知っている建築職員はいません。そういうことを知っている建築家もいません。だって建築はそんなこと頼まれないんだもん。同じお金で、1番広くて1番便利で、1番見栄えがする建物を法律違反しないで作ってって言われるだけだから、みんな法律違反しないようにちゃんと法律ギリギリに作って皆さんに喜ばれようとしているという経済行為をしているかもしれません。

これは、かもしれません。人によっては、それじゃまずいと思ってちゃんとやってくれる人もいます。

(1:01:00)

これが江戸の元禄関東地震、340人しか亡くならなかったんです。大正関東地震、7万人亡くなったんです。理由、単純です。東京がまずいから。隅田川の東にまちを広げた。そこに大きな工場を作った。その従業員たちがこの、とってもズブズブしたところに家屋を密集させた。だから、この隅田川の東側の柔らかい地盤で家が壊れ、そこから火が出て、密集してるから全部燃えて6万人が命を落とし、その火が隅田川を越えて西側に行って1万人が命を落とした。

これが原因で日本は戦争せざるを得なくなって、戦争で310万人命を落とした。人災です。土地利用の間違いです。

でも、そんなこと誰も考えないので、一番危険なところでオリパラをやり、そして最も危険なところに東京スカイツリー作り、そして、かつて日比谷の入り江を埋め立てたズブズブ地盤のところに大手町、丸の内、有楽町を作って、そこに超高層ビルを林立させてる。

ほとんどの一流企業はそこに本社を構えてる、というのが本当のような気がするんです。

これが関東地震が起きる前で、この日比谷公園っていうのは、官庁街を作ることができないくらいズブズブだったので、官庁街作るのは諦めて作った公園です。とってもよく揺れやすいので、こんなことになっちゃったわけです。こういう中、帝国ホテルだけが生き延びたわけです。

200年前の江戸一目図を見ると、川沿いの危険なところは緑豊か。それが100年経つと家屋密集で7万人が命を落とした。現在はこういうまちを作った。まだ名古屋で良かったと思います。密集度合いは全然違いますから。さらに、こんなにニョキニョキにさせちゃった。ここに17万台のエレベーターがある。直下地震ではP波とS波との時間差はない。ということは、みんなエレベーターに閉じ込められる。ラッシュ時間だったら10万を超える人が閉じ込められる。助けるすべは無い。ということが本当のはずですけど、そんなこと言ったらって解決策ないんだから、そういう議論は非常にしにくい。

こんなニョキニョキ建てて本当にいいのか。と僕は思います。だって寺田寅彦はその時の様子をこう書いてるわけです。

その瞬間に、子供の時から何度となく母上に聞かされていた土佐の安政地震の話がありあり思い出され、ちょうど船に乗ったようにゆたりゆたり揺れるという形容が適切であることを感じた。

安政の地震っていうのは、これ南海地震です。南海地震だって関東地震だって、長周期の揺れたっぷりあるよって言ってるわけです。

(1:03:53)

だけど、我々の先輩たちはある時期、地震では長周期の揺れがないから超高層ビルは安全だっていうふうに主張して、超高層ビルをいっぱい建て始めたわけです。こんなことも言ってます。

悪い年回りはむしろいつかは回ってくるのが自然の鉄則であると覚悟を決めて、良い年回りの間に十分の用意をしておかなければならない。

むしろ今は1番やらないといけないことは地震対策です。人間は何度同じ災害に遭っても決して利口にならない。東南海地震だって安政の東海地震だって、

宝永の地震だって受けてるのに、全然利口にならないから地震対策は全然進まない。戦争はしたくなければしなくても済むかもしれないけれど、地震はよしてくれって言ったって待ってはくれない。これは自然現象ですから、自然ほど伝統に忠実なものはない。

文明が進めば進むほど、天然の暴威による災害がその激烈の度を増す。災害を大きくするように努力しているのは、誰だろう文明人そのもの。

理屈は抜きにして、古今東西通ずる歴史という歴史はほとんどあらゆる災難の歴史である。

モノを怖がらなさすぎたり怖がりすぎたりするのは優しいが、正当に怖がることはなかなか難しい。

これまさにそうなんです。正当に怖がることは難しいから、いろんな計画を作るときにどうしても防災を抜いちゃうんです。これ悩ましいことなんです。人間ってそういうもんですから。見たくないものは見ないんだから。これは人間の性なんです。

これが東南海地震で壊れた工場。1ヶ月後にやってきた三河地震。今の耐震基準は1回の地震に対して皆さんの命を守るだけで、2回連続の地震に対しては皆さんの命は守りません。でも、必ず誘発地震が来るんです。

で、この地震の時、四日市では世界一高い煙突が折れました。長周期の揺れたっぷりだから、その場所には長周期がとっても苦手なタンク群があるわけなんです。ここで苫小牧のように火が出て油が流出したら名古屋終わりです。伊勢湾使えなくなります。だから、もっと伊勢湾域全体で本気になって災害対応のことを考えないといけないんです。

でも、やっぱり今ダメなんです。セクショナリズムで、それから市町村を超えて一緒にいろんなことをすることができないから。でも、名古屋市だったらできるんです。ここのドンだから。名古屋市がみんなに声をかけて、一緒になんとかしようって言ったら乗っかってくれるはずですよ。あまり嫌われてないのよ、名古屋市は。

(1:06:38)

で、阪神淡路大震災が来ました。そんなに大きな地震じゃないけど、直下で起きたら揺れが強いから震度7の揺れになって、朝5時46分だったので、古い家でお年寄りがたくさん亡くなった。だから、みんな古い家だけがいけないって感じたわけです。でも、そんなことはありません、いっぱいビルが壊れたんですから。昼間だったらサラリーマンがいっぱい死んでたわけです。神戸市役所でもいっぱい死んでたでしょ、潰れたんだから。

だけど、それはみんなあまり考えたくなかった。全く同じ大きさの地震が3つ

起きてるんです、平成に。マグニチュード 7.3 で、震源の深さも同じ。だけど、壊れた建物の量は、神戸だと 10 万。10 分の 1 の人口の鳥取は 435 なんです。これ 200 倍以上違うんです。人口比は 10 倍なんです。ということは、被害率は 10 倍以上なんです、神戸は。理由は単純なんです。都会の建物の安全性が低いからなんです。

田舎の建物は背が低くて、しかも田舎はみんな昔ながらの安全な集落なんです。安全なところから出てないんです。だから敵は弱い。しかも、低い建物は揺れないんです。だって、低い建物は揺れないんです。高い建物は揺れるんだもん。

だけど、建物の揺れが同じだと思って設計してんだから、こっちの建物は敵を大きく見つめるわけです、建物の揺れが同じだから。これなんかもっといいですね。震度 7 でも壊れない。でも、これと同じ揺れなんです、これ。これ、地盤の揺れは震度 5 レベルです。でも、こんな当たり前のことを勉強しないんです、今は。

だって、そんなこと望まれないから。みんなに。ほんとは昔の人のように自分事としていろんなことを考えないといけなくて、人任せにしてちゃダメなんだけど、今はあらゆること人任せの社会を作っちゃいました。

なので、建物の高さが高くなるに従ってたくさんの被害が出てるわけです。これ、今のこと考えれば当たり前のことなんです。だから、名古屋市も中心がやばいわけですよ。で、特に堀川より西側は敵は強いし、ガラスっぽいビルいっぱいあるから、僕だったら西は少しずつ撤退して東に持ってくるってことをします。で、東側の丘陵地が広がっているところを、市町村合併して、西側の人たちが引っ越せる場所を確保してあげるといようなことを僕だったらしたいと思います。これから 100 年のことを考えれば。

でも、総合計画っていうのは、これから 5 年とか 10 年というみみっちい時間の話だから、そういう大英断ができないわけです。だけど、家康はやったんです。震災前、高台移転を。東京が今あるのは後藤新平が頑張ったからだけです。

(1:09:46)

柔らかい建物はよく揺れる。それから、下が壁が多い建物はあんまり揺れないけど、下が駐車場のような建物はよく揺れる。柔らかい地盤の上の柔らかい建物はよく揺れる。だけど、建築基準法は第 1 条にこの法律は、建築物の敷地、構造、設備の用途に関する最低の基準しか定めないので言い切ってるわけです。

これは憲法違反だからなんです。憲法は最低限の生存権しか、我々はちゃん

と、保障されてない。最低限なんです。しかも、今から 73 年前の最低限、80 年前の最低限ですね、要は。で、一方で、憲法 29 条は、財産権は犯してはいけないって書いてあるんです。だから、皆さんの財産に対して必要以上の制約を与えちゃいけないので、最低限の生存権を保障する範囲で皆さんに法的に制約を与えてるのが建築基準法です。だから、建築基準法守ってれば安全だなんて、一言も書いてないんです。ということも、本当は公務員の方々にも勉強していただきたいとも思います。

そんな中、東日本大震災がやってきて、これめっちゃくちゃ揺れました。すごい津波でした。過去最大の液状化面積でした。しかもそれは震源から離れた東京湾岸。これ大阪の超高層ビル。大阪府がここに庁舎移転しようとしてたビル。めっちゃくちゃ停電しました。超高層ビルめっちゃくちゃ揺れました。だけど結局日本人は反省しませんでした。高台移転しないし、相変わらず液状化するところにタワマンいっぱい作ってるし、電力を自由化するなんてことを馬鹿なことしちゃったし。

あんなに発電所は危険なところにあるんだから、当然僕たちは電気がなければ生きていけないんだから、電気代値上げしてでもいいから発電所を安全にしておいて言わなくちゃいけなかったけど、電気は安い方がいいって言って自由化しちゃったわけです。本当にそれでいいのか。これはでも、僕たち国民が、市民が考えるべきことです。市民がそう考えるから、その考え方に則って行政が動いてくれるわけで、行政が決めるわけではありません。市民の考え方の問題になります。

(1 : 12 : 14)

そして、これは 3・11 の日に私がいた場所です。東京の超高層ビルの 15 階で超高層ビル心配だよセミナーをやっていたんです。そうしたら、ほんとに揺れちゃったんです。ここにいる人たちは超高層ビル設計者たちです。誰も机の下に潜らなかった。机の下に潜ったのは僕だけ。1 番前で僕だけあの演台の机の下に潜っていますけど。ま、要はこれが今の社会の現実であるという風に思っているわけです。あ、これ、僕、今潜ってましたね。

というようなことを、まあ今日は 45 分しかないので、サクサクサクっと話をしたんですが、そういう覚悟を僕たちは背負っています。これは戦後に自然災害で命を落とした人の人数です。青色が風水害、赤色が地震です。これが三河地震、南海地震、これが福井地震ですね。ずっと地震起きてないんです。で、伊勢湾台風の後、徹底的な治水対策を始めたんです。治水対策は行政がやりますから、国民は努力しなくたっていいんです。国が堤防を作ってくれるから、これ被害減っただけです。で、その間に我々は高度成長したわけです。

で、地震が起き始めたんです。やばいっすよね。どんどん増えている。それ当たり前なんです。だって、みんながどんどん危険な場所にまちを広げるし、それから誰も耐震対策してくれないし、家具の転倒防止もしてくれない。やったのは、行政がやらなくちゃいけない市役所や消防署や学校の耐震化だけは進んだ。でも、実はこの名古屋市内の民間ビルや住宅は全く耐震化が進んでいません。このままだと日本は終わりなんです。

国民の半分が被災しますから。1 番やられるところが名古屋なんですから。そして、この我が地は、日本の製造品出荷額のダントツなんです。ここが車作れなくなって、日本中の部品工場が止まるっていうシナリオは、もうこの国終わりっていうことなんです。

土木学会では、これが起きたらもう国が終わって、世界で 1 番貧しい国になりますってもう明言もしてるんだけど、誰も本気にならないです。それは、みんなが頑張らないからです。誰かだけ頑張ったって無理だから。

さらに、南海トラフの地震は東と西がペアで起きます。1 回前は 2 年、もう 1 回前は 30 時間。もう 1 回前の同じ日に 2 つが起きました。

だから、どちらか 1 つ起きたら南海トラフ地震臨時情報という情報を発信します。

(1 : 15 : 12)

南海トラフ地震臨時情報のことを人に説明できる人、手を挙げてください。あれ。〇〇さんは手をあげないとダメじゃないですか。あ、〇〇さんはどうして手挙げないんですか。こんな会場にいて、2019 年にスタートした南海トラフ地震臨時情報のことを喋れる人がいないっていうことはどういうことかっていうと、それが出たらこの国パニックですよって言うだけです。

名古屋市内にはこんなにもたくさんのエリアで、事前避難対象地域が指定されています。

今日ここへ来る前は、戸田川緑地でお話をしてましたけども、戸田川緑地の住民の皆さんも南海トラフ地震臨時情報のことを知りませんでした。まずいです。市として指定したものなのに、市民が知らないって。

実は南海トラフ地震の 1 発目でそれなりの被害出したら、もう 1 回来ること世界中は知ってたから、1 個目の地震で為替相場なんてどうしようもない状況になります。1 回目に来た、もう 1 回来るのに、誰がタンカーを伊勢湾に入れてくれるでしょう。誰が食料を入れてくれるでしょう。やんなくちゃいけないことは、1 回目の地震で圧倒的に被害を減らして、さすが日本だ。もう 1 回来たって心配ないぞ、っていう国になってなかったら、この国、本当にダメになっちゃうんです。

で、それを経験するのは子どもたちです。子どもたちは南海トラフ地震を免れることは絶対できないんだから。だから、大人がやるべきことは、子供たちを不幸せにしないようにすることのはずです。で、こういうパンフレットを名古屋市役所は増刷してくれて、市民にいくらでも配れるようになってるはずなのに、今日は防災の日でシンポジウムやってるのに、これ皆さん配ってもらってないですよ。〇〇さん、ダメです。こういうチャンスにちゃんとこういうのを配らないと。結局は全てが連動しているわけです。

(1:17:22)

で、国は一生懸命津波避難タワーは作ったんです。だから、おそらく死者は減ります。今僕は内閣府と一緒に被害想定の見直しの作業中で、来年の1月にはアウトプットする予定ですけど、多分死者は減ります。

津波避難タワーを行政が作ったから。だけど、建物被害は減りません。全然耐震化は進んでないので。この数は1年間に日本で作る建物の3年分です。愛知県下は被害想定によると2割の建物が全壊、焼失です。そんなことしたら、神戸よりひどいんだからどうしようもないわけです。

これ、病院の耐震化率です。病院耐震化率8割切ってるんです。これ、潰れない耐震化率です。病院機能が維持できるっていうことは全然言っていないんです。そして、つい最近の南海トラフ地震のワーキンググループで名古屋が槍玉にあげられました。災害拠点病院の半分が水没するところにあるからです。どうすんだこれって質問を受けたんですけど、まだあんまり検討できてませんと正直に答えました。これ、めちゃくちゃやばいことなんです。

さて、そういったことがきちんとアクションプランとか総合計画に入っていくかどうか。そして、住宅の耐震化、全然進んでません。耐震化が進んだように見えるけれど、その分空き家が増えてるだけです。耐震化率には空き家はカウントされません。これもなんか具合が悪い。

そして、愛知県下は第一次緊急輸送通沿いの民間建築物の耐震化が全然進んでなくて、古い建物のうち2割しか耐震性がありません。名古屋市内、広小路通り、ボロボロです。これが耐震性が不足している建物が存在している場所です。

これが公表されてんですけども、名古屋市役所のホームページからは入っていない場所に公表されてます。どうやって調べるかというと、愛知県のホームページから、辿っていくとここに辿り着けます。公表はされてます。だけど、見られたくないみたいで、分かりにくいところに置いてあります。ま、そんなもんです。

(1:19:44)

で、工場動かなかったら終わりです。でも、従業員も生きてないといけないし、公共交通機関も生きてないといけないし、3万点の部品を作ってる工場生きてないといけないし、情報通信生きてないといけないし、物流生きてないといけないし、すべての工場に電気、ガス、燃料、水が届かないといけないし、さらにお客さんに車届けないといけないし、さらに海外にまで物を出さないといけない。

ここの強みはこれが動いてることが強みだったはずだけど、今の現状のままでこれ全然ダメなので、無理です。

去年の明治用水頭首工で分かった通りです。ライフライン全然ダメだから。だけど、僕たち本音の会っていうのをやっていて、本音トークをしてたおかげで実はこんなにひどいってことをみんなで内緒話してたので、この人たちは10万リットルの水を備蓄してくれたし、この人たちは井戸を掘ってくれてたし、それから、農業従事者の人たちは、先に言ってあったので、水利権を主張しなくて、工業用水先に使っていいよと言ってくれたんです。

それは、西三河防災減災連携研究会で、ちゃんと地域ぐるみの連携をしていたし、本音の会で産業界越えた連携をしていたおかげで、それを経済連合会もサポートしてくれていたから。だから、準備しておけば、どんな怖いものだってちゃんと乗り越えられるっていうことであります。で、国の方もそれは本気になり始めてます。新たな国土形成計画を7月28日に作りました。東京一極集中はダメだ。明解に言ってます。それから同じ日、新たな国土強靱化基本計画も閣議決定しました。地域の圧倒的な防災力の強化をしないとダメだって書いてあります。デジタルも活用する。両方とも防災のところが担当しましたから、今言ったような思いが2つの計画にばっちり入ってます。

そして、来年の1月目途に南海トラフ地震の対策の見直しをします。これはさっきのより相当やばい情報を出します。国民1人1人が本気にならない限り全く無理だからねっていうことを白状します。そして、今は直接死32万3000って言うてるけど、実は関連死はとんでもないよっということも白状します。ただし、数字は出さないでおこうと思います。そんなの数字出したらどうしようもなくなっちゃうから。

(1:22:18)

ただ、今お話をしたことからわかるように、関連死は膨大です。だって、水来ないんだもん。電気ないんだもん。災害拠点病院動かないんだもん。で、普通の病院が生きてないといけないけど、普通の病院は全然対策してないんだもん。ということで、皆さんにはたっぷり怖い思いをしていただき、これから栗

田さんと一緒に解決策を考えていくという時間になると思いますので、以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

司会

福和様、どうもありがとうございました。南海トラフ地震を乗り越えるために、今後、名古屋市がどのような対策をとればよいのか、私たち市民がどのような心構えでいれば良いのかについてお話しいただき、地震対策についてとても考えさせられました。

みなさま、今一度、福和様に盛大な拍手をお願いいたします。

ここで 10 分ほど休憩の時間を設けたいと思います。

15 時 35 分に再開いたしますので、それまでにお席にお戻りくださいますようお願いいたします。

休憩

(1 : 23 : 43)

司会

みなさま、お待たせいたしました。ただ今よりトークセッションを開始いたします。まずは、ファシリテーターとゲストの方々をご紹介します。

ファシリテーターにお迎えするのは、認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事栗田暢之様です。

栗田様は、現在までに多くの被災地で支援活動を行う一方、災害に強いまちづくりや人づくりの各種事業にも多く携わられています。国や自治体などの防災や災害ボランティア等に関する各種委員も歴任され、ご活躍されています。

ゲストとして、先ほど講演された名古屋大学 名誉教授 福和 伸夫様。そして、名古屋市防災広報アンバサダー SEAMO 様、OS☆U 夏川 愛実様、そして OS☆U の香田 リン様です。

SEAMO 様は、「名古屋市防災広報アンバサダー」、「ナゴヤコロナ対策ハートフルメッセンジャー」を務め、令和 4 年に、名古屋市防災・コロナ対策啓発ソングとして、『エアハグ』を書き下ろし、デジタルリリースされています。

夏川 愛実様と香田 リン様は、全国でも最大の規模を誇る大須商店街のバックアップを受けながら、「にぎわい創出！超絶元気発信！」をコンセプトに誕生した OS☆U のメンバーとして、コロナ禍においては、感染症対策を実施しながら地域に密着した活動やファンとの交流を続けられました。

本日は、「防災対策・感染症対策」を題材にトークセッションして頂きます。

それでは、一旦、ファシリテーターの栗田様にマイクをお渡ししてトークセッ

ションを進行して頂きます。栗田様、よろしくお願い致します。

(1:26:11)

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事 栗田 暢之氏
(以下、栗田氏)

はい、皆さん、よろしくお願いします。

もう福和先生とは、20年来こうやってね、ご一緒させていただく機会も数多くあるんですが、相変わらずお盛んで。退官されたとは思えないぐらいの迫力で。

ほんとにすね、鋭いご指摘をいただいて。皆さんもうお疲れでしょう。ぐったり来てる。特に行政の方、ぐったり来てると思います、ご愁傷様でございます。でも、なんとかしないといけないですよ。なんとかしないといけない。で、なんとかしていくためにどうしたらいいのかという答えはなかなかそんなに簡単に見つからないかもしれませんけど。

今日は、SEAMOさんとOS☆U。若い人たちが、やっぱりね、最終的には、今日の教訓を色んなところに発信していただいて、インフルエンサーになっていただいて、やっぱり備えるって大事だねっていうことがちゃんと伝わっていくような。ま、そんなですね、会にしていければいいなという風に思っております。

短い時間でございますが、お付き合いいただきますようお願いいたします。じゃあまずですね、SEAMOさん。ありがとうございました。楽屋で福和先生のお話をね、少し聞いていただいたと思うんですけども。はい。びっくりされたんじゃないでしょうか。

名古屋市防災広報アンバサダー SEAMO氏(以下、SEAMO氏)

そうですね。あの、すごい、まあ、僕なんか、ここ立ったらすごい怒られるのかなって、最初思ったんですけど。はい。でもすごくためになる話を我々としてはもっと備えていかなきゃいけないんだなっていうこと。大きなタンスとかそういうものは、後ろの、なんて言うんすか、あのストッパーみたいな、止めたりとか、それぐらいはやらせていただけてます。ありがとうございます。

栗田氏

私がいいっていうまで福和先生は黙っていてください。

どうぞ、SEAMOさん。多少、やっぱりそういう意識があって、転倒防止の突っ張り棒みたいなものやってると。

SEAMO 氏

そうですね、あのー、ま、防災アンバサダーということをやらせてもらって。まあ、そういう流れもありましたから、自分自身も何やってるんだっていうことを突っ込まれた時に、ちゃんとやってなきゃいけないなっていう、ちゃんと意識もありましたので。

栗田氏

なるほどなるほど。はい、それはアンバサダーに就任されたからということですか。

SEAMO 氏

あの恥ずかしながら、やっぱりそういうところはありません。やっぱり、それをやるまでは、僕も、名古屋のラジオ局とかで、生放送のラジオとかもやらせていただいていたんですけど、そういうラジオの放送の中で、例えば、年に 1 回、ちゃんと防災について考えようみたいな、そういう試みがあったりするので、そういう都度、そういう時に 1 度、自分家の防災グッズはどうなってるかなとか、そういうチェック。例えば防災グッズとか水とか食料とかであっても、実は賞味期限が切れてたりするんだよとか、電池とかもそうですね、そういうことをもう 1 度再チェックしたりとか、そういうことはすごくやるようにはしております。

栗田氏

いやいや、すごいなと思いますけど、まあ、それが当たり前になっていくことが重要ですね。あなた、やってないの、ありえないみたいなことにしていかないといけないですよ。

SEAMO 氏

そうですね。

(1 : 29 : 23)

栗田氏

まあ、やっぱり、取り組みとしては、アンバサダーっていう取り組みで、就任されて、やってらっしゃるということです。ありがとうございます。夏川さん、どうでしょうか。なんかやってますか。防災対策。

OS☆U 夏川 愛実氏（以下、夏川氏）

はい、そうですね。私自身も防災に関して、防災グッズを常備しておこうと思って準備してるんですけど、実は、今年に入ってちょっとしたぐらいに、あ、そういえばと思って 1 度チェックしたら、それこそ賞味期限が、ほぼほぼ水とも切れてて、はっと思ったことはありました。

栗田氏

まあ、そうなるよね。でも。なるよね。

夏川氏

そうですね。だから、どれくらいの頻度でチェックしようってその時に考えました。

栗田氏

あのね、あのー、備蓄品はいるんですよ。大体。福和先生、1 週間は確保しなきゃいけない？1 ヶ月？どのぐらい？水。

福和氏

水は名古屋市内に住んでたら 1 週間どころじゃないですよ。

栗田氏

一週間どころじゃないですよ。

SEAMO 氏

もっと長く用意しとかなきゃいけないってことですか。

福和氏

僕はね、田舎に住んでますけど、1 ヶ月分はあります。しかも井戸まで掘っちゃった。だって絶対来ないんだもん、水。電気がないと水ないし。

SEAMO 氏

僕、なんか勝手な意識だったんですけど、3 日ぐらいあればなんかそういう救助とかなんかあるのかなって僕思ってたんですけど、やっぱり 1 週間以上…。

福和氏

救助は誰も来ないよ。

SEAMO 氏

来ないですか。

福和氏

だって、ちっちゃい災害はみんな助けてくれるけど、南海トラフ地震は…。

SEAMO 氏

もうみんなパニックに…。

福和氏

パニックじゃなくて、日本人の半分が被災してる。

SEAMO 氏

そういうことですね。

福和氏

助ける人よりも助けられる人が多いので、

SEAMO 氏

自分の…。

福和氏

自分で生きてください。

SEAMO 氏

頑張ります。

福和氏

あそこにいる行政の人たちは何の役にも立たないので。

栗田氏

それ以上喋らないでください。

SEAMO 氏

頑張ってくれてますよ、でも。

福和氏

普段頑張ってくれている。いざという時は無理なので。

(1:31:19)

栗田氏

すいませんが、私が進行でございますんで。阪神大震災で3日ぐらいで、救援が届いたってということで、3日、3日って言われてましたけど、東日本大震災が3日なんか絶対届きませんでした。だから今、1週間という風な啓発がありますが、でも、南海トラフまともに来たら、1週間で難しいという風に、福和先生は1ヶ月、水はありますという話をされました。だから、備蓄の水としてね、夏川さん、1ヶ月も備えられないんで、備えられないっていうか、ローリングストックっていう発想があって、普段使うお水をちょっと多めに買って、それを普段からぐるっと回してくってという考え方ですね。だから、いつもちょっと余分にあると。

夏川氏

なるほど。常にちょっと多めに。

栗田氏

福和先生はそれで毎晩ウイスキー飲んでるから。水割りで。

福和氏

ウイスキーだけでなく、色々。

栗田氏

色々。だから、自分の暮らしの中で、ちょっと多めに買っていくものを、買い足していく。そうすると絶対減らない。しかも新しいと、常に。こういう発想がね、今、最新のね、備蓄の考え方ですね。

夏川氏

じゃあ、わざわざ、防災グッズとして購入するっていうよりかは。

栗田氏

そうそう、普段あるもの。

夏川氏

日常から少しずつ増やしていくっていう。

栗田氏

今、あの、レトルトとかね、色んなちょっと長持ちするもの、いっぱい出てるじゃないですか。不味いって言うとおかしいけど、その、食べにくいカチカチの乾パンとか。

SEAMO 氏

それが結構美味しくなってきたんで、すごく。

夏川氏

進化してますよね。

SEAMO 氏

なんかそういうローリングしながら食べると、意外と美味しく、こんなに味上がってるんだってのはすごくあると思いますよ。

栗田氏

そうやって、まあ普段使うもの、そしてプラス、少し保存食の美味しいものをですね、貯めておくと、心配しなくていいな、はっと気づいた時に賞味期限切れたにはならないなって感じですよ。

夏川氏

勉強になります。

(1 : 33 : 18)

栗田氏

ぜひ参考にさせていただいて。

はい、それじゃあ、香田さん、どうですか。

OS☆U 香田 リン氏（以下、香田氏）

はい。私はですね、あんまり、対策というものは、あんまり正直してこなかったんですけど、その、備蓄というか、そういう防災グッズとかを揃えるのもそうなんですけど、自分の住んでる地域のハザードマップを確認したりだとか、災害用の電話番号だったりを確認することが大事だなと思いました。

栗田氏

ああ、いいですね。ハザードマップを見て、どうでした。

香田氏

そうですねえ、自分の住んでる地域のここが避難所だよとか、そういうところが、分かったりしたので、やっぱり、そういうのを確認することが、確認することで、自分が、家族とかと離れてしまった時とかに、災害になった時とかに、出会えたりだとかするので、やっぱりそういう確認は大事だなと。

栗田氏

いや、それ偉いね。偉い、偉い。あのね、何が偉いかと言うと、あの、ハザードマップって全国配布されるんだけど、大体、お父ちゃんとお母ちゃんが見て、娘には見させないっていうか、娘と話しないんだよね。だけど、自分で見た。

香田氏

そうですね。でも、家族で 1 回その話をする機会があって。

栗田氏

凄いね。

香田氏

そうですね。小学校とか高校生とか、あの、学生の頃に、なんかそういう会があって、その学校の中で、こういう会議が開かれて、1 回、家族でも確認しようってなって、そこで、そういう話をした時に、ハザードマップも確認しようとか、自分が、はぐれてしまった時とかに、公衆電話とかで、電話番号を確認しようとか、そういうのを確認する機会がありました。

栗田氏

いいですね。それね、ぜひ、OS☆U のメンバーで、大須商店街はどうかなって見てみるといいかもしれないね。

香田氏

そうですね、大須。

栗田氏

SEAMO さん、地下鉄の駅にいっぱい貼ってある。ハザードマップが新しくなりました。

SEAMO 氏

そうなんです。ちょいちょいと、やっぱ、バージョンアップというか、新しくなったりするので。あの、1 回見ておしまいということではなくて、また、こまめにチェックするのとかも大事ですよ。

栗田氏

大須商店街も結構揺れる。

香田氏

はい、そうですね。

栗田氏

木造家屋が多いんで。火災も心配ね。

香田氏

確かに。

栗田氏

液状化は心配ないかもしれないけども。やっぱりね、避難所を確認するとか、どんな道が安全かだとか。大須も結構細い道も多いもんね。

香田氏

そうですね。

栗田氏

だから、いざとなったら、普段、活動してらっしゃるところから、どこが 1 番避難所として近いのかだとか、避難所というよりは、どこに行けば安全な空間があるのかだとか、そういうことをメンバーで話し合っていくといいですね。

香田氏

そうですね。1 回そういう機会を作ってみます。

(1 : 36 : 08)

栗田氏

いいですね。ぜひぜひ。

ちょっと、OS☆Uにもう一個、おっさんからお願いがあるんだけど。この、ジャラジャラかけてね、いつも歩いてるんですよ。これ目立つでしょ。これ何が入ってるかなとか、何ぶら下げてるのかなと、見てもらうのがやっぱり重要で。これ、1つ目はホイッスルですね。ピー（笛の音）。

香田氏

音が聞こえますよね。遠くからでも。

栗田氏

福和先生、持ってますよ、絶対。

福和氏

ピー（笛の音）。こっちの方がいい音ですね。

栗田氏

防災マニアの皆さんも持ってらっしゃると思う。持ってらっしゃる方は手を挙げてください。はい、大体マニアの方です。

これは、阪神大震災の時に、ゲートボールの審判をやっていた、おじいちゃんのボランティアが午前5時46分の発災の時に、家が倒壊して埋まっちゃったんだけど、そういえば、ゲートボールの審判用に枕元に、ホイッスルが置いてあったはずだと気づいて、それをピーピーピーピー吹いて、人がいるという風に発見されたというエピソードですね。

香田氏

すごい。

栗田氏

だから、私たち移動しますから。どこの空間にいるかわかんないですよ。そんな時に、今、目覚まし時計でも、スマホでも、音が鳴るものはいっぱいあるんだけど、でもそれは必ずしも人が鳴らしているのか、機械が勝手になってるかわかんないから、やっぱり人の笛だとか、「こんこんこんこん」、こう叩く、人間のやっぱりこうリズムとか。SEAMOさん、すごくうまいと思うんだけど、そのリズムはね。

SEAMO 氏

はい。あの、タイタニックでも、最後、ヒロインが笛を持って助かったということが、ありますから、本当にその通りですよ。

栗田氏

そうなんです。これはやっぱり、自分がなんかあった時に、助けを呼ぶために、非常に重要なアイテムで、つけている。

2つ目が懐中電灯ですね。これね、これですね。これね、やっぱり阪神大震災でも、午前5時46分、あるいはどんな時間帯に地震があるかもわからないし、夜やっぱ移動するってのは非常に危ないということもあって、最低限、LEDなんで、よく照らされるんで、こういうのをつけとこうかなという感じですね。これね、私が酔っぱらって飲んだときに、帰って鍵穴を探す時も便利。

SEAMO 氏

そういう、お父様方が締め出された時とかにも、役に立ちますよね。

(1:38:39)

栗田氏

SEAMO さんノリがいいな。この箱の中に入ってるのが、これはね、実は、娘がこのポーチをくれたんだけど、ここに、私の職業柄、これ、誰か倒れた人がいた時に、人工呼吸しなきゃいけない時に、ビニールが入っていて、直接、口と口が触れないようにするためのものが入ってます。それは、まあ、人命救助のためっていうことで、これは、あるんですけども、この中に、520円入ってます。520円。なんで520円かと言うと、20円は公衆電話ですね、もうスマホなんか、ほとんど使えないと思った方がいい、電話は特に。地震当日はね。だけど、公衆電話で、停電しちゃうと、テレホンカードも使えなくなっちゃうんで、10円ならば、できるんじゃないかなって期待も込めて。

SEAMO 氏

公衆電話とかに、なんか、緊急のボタンとかついてますよね。

栗田氏

それも機能すれば、ただでいけます。

SEAMO 氏

機能しないときもあるということなんです。

栗田氏

でも、それがついてない、公衆電話とか。

SEAMO 氏

なるほど。ついてないものも。

栗田氏

うん。でも、最近は公衆電話自体が少なくなってきたんでね。さっき香田さん言われた、あの災害用伝言ダイヤルもね、非常に有効で。だけど、電話どうするんだ。そもそも電話どうするんだという話もあるんで、その 20 円、微かな望みをかけながらもないと、あるでは、全然違うよなと。

香田氏

そうですね。

栗田氏

500 円は。これはね、希望的観測で。私、被災地 50 力所以上行ってますが、被災された方が、1 番何が必要だったかっていうことをお聞きした時に、声を揃えて言ったのは、やっぱり水だと言われたんですよ。人は生きていくために水は絶対いるんですよ。けども、水なんかね、やっぱり売ってないわけですよ。けど、普段持ち歩きもしないんだけど、持ってる時はいいんだけど、持っていない時は 500 円入れてればどっかで買えるんじゃないかと、こういう希望的観測です。520 円をいつも入れてる。これ、OS☆U の 2 人にさ、同じようなものをジャラジャラ腰からぶら下げてもらって、ファンの皆さんからそれ何って聞かれたときに、これ実は防災グッズなのよなんてこと言ってくれと嬉しいなと思って。

香田氏

そうですね。じゃあ、普段から衣装にもつけていきます。ホイッスルと、520 円を。

(1 : 40 : 56)

SEAMO 氏

そういうグッズを作るっていうのもありですよ。

夏川氏

そうですね。OS☆U のグッズとして販売する。

栗田氏

それ、すごいなあ。

SEAMO 氏

その時、あの、我々も 1 枚噛ませてくれませんか。

夏川氏

かしこまりました。ちょっと大人の方にこのあと相談してみたいと思います。

栗田氏

だから結局ね、自分が今できることは何かっていうことを、結局は 1 歩 1 歩やっていくしかないんですよ。死なないために、ちゃんと SEAMO さんは、家具止めぐらいはしますよと。1 番いいのは、家具の前で寝ないっていうこともそうだし。今、クローゼットになっていますから、そういう危険性っていうのも社会全体でどんどん減っているってこともありますけども。だけど亡くなった方もいらっしゃるんで、大きなものに挟まれちゃって。だから、寝ている時が一番無防備なので、そういうものは、なくしていくってことが大事ですよ。それから、いざという時の対策として、グッズをちゃんと持っていくと。賞味期限が切れることのないよう、ローリングストックの考え方で、いつも新鮮なものがちょっと多めにあるっていう、こういう暮らしに慣れていくってことですよね。あとは、我々移動しますんで、こんなものぶら下げて、いざという時にやっぱり助かろうという気持ちになって、それがもっともっと、OS☆U とか SEAMO さんの力で、もっともっと多くの若者にこういうことに気づいてほしいなっていうメッセージですよ、非常に重要です。で、しかも、その SEAMO さんの提案で、売ったらどうかと。グッズとしてみたらという話もありました。

SEAMO 氏

そうすると、みんなウィンウィンではないか。

栗田氏

そういうことですね。ここまでで福和先生、不十分な対策かもしれませんが、一言お願いしたいと思います。

福和氏

栗田さん、話上手だったでしょう。

SEAMO 氏

上手ですね。

福和氏

防災で大事ななのは詐欺師なんです。

SEAMO 氏

結構たいそうな言い方ですね。どういうことですか。

福和氏

みんな騙してでもいいから対策始めてくれればこっちのもんなので。栗田さんは良い詐欺師なんです。

(1 : 43 : 22)

栗田氏

まあ、きつい詐欺師ですよ。悪い詐欺師とは言わないけど。だから、一人ひとりが改めて自分のこととして考えて対策していくっていうのが非常に重要だってことが、今までの話でわかります。

もう一つ、感染症のことも少しお伺いしたいのですけれども、私「エアハグ」を視聴させていただいて、感動しましたよ。

SEAMO 氏

ありがとうございます。僕の楽曲の「エアハグ」。

栗田氏

我々の仲間もこのコロナ禍によって、いろんな被災地が苦しんでるのに、今までは飛んで行って支援してきた。手と手を携えて、膝と膝とを付き合わせて、大丈夫でしたかって言ってきました。それができなくなっちゃったんですよね。だけど、「エアハグ」にちゃんと書いてあったんだよね。心で繋いでいこうと。そして、足りない分はイマジネーション、きっと繋がるというこのメッセージ、泣けたよほんとに。ボランティアのための歌じゃないかと思ってるんですよ。

SEAMO 氏

でも僕ら自身も本当にコロナ禍の時には、やっぱりライブやコンサート、ツアーとかが、やっぱり泣く泣く中止にしなければいけない。そういう時期に、僕らの仲間のうちには強行なさる方もいらっしゃいましたし、そういう中で、あの人たちはやってんのに、僕たちはどうすべきかなって考えた時に、ここで中止にしたりすることが、お客さんであったりとか、普段応援してくれる方たちの命を守ることににもなるわけです。やれない分は、いつかもう一度近くでライブして、抱きしめたりできるように、そういう時期までは、イマジネーションと言いますか、みんなの心を、気持ちをステージの上から抱きしめようよっていう感じでその歌を作らせていただきました。

栗田氏

本当に良い歌なんだよね。聞かれました、皆さん、もちろん聞いていますよね。「一人じゃ立ち向かえなくても、僕らならできるはずと何度も乗り越えてきただろ？思いやる立ち向かう」なかなかこんなことは言えないんだけど、いいですね。素晴らしいですよ。OS☆Uにもお聞ききしたいんですけども、OS☆Uも感染症の時には色々制約があったんですが、どうやって工夫しましたか。

(1:45:57)

夏川氏

私たちもリアルにファンの人と会うっていうのをメインに活動をずっとしていたので、それが全くできなくなって、ライブもできなくなってしまったんですけども、なんとかして私たちの元気、超絶元気を発信したいっていうことで、今は配信とか、YouTubeでの生配信だったりとか、そういった配信アプリでライブをしてそれで届けるとか、もう本当にメンバー同士も会えないっていう時は、それぞれリモートでお家からお話してそれを届けるとか、そういった活動を中心にしていました。

栗田氏

なるほどね。やっぱりそうせざるを得なかったんですよね。配信で存在感を主張しながらということですかね。香田さんはどんな工夫をした？

香田氏

私はコロナ禍の時はアイドルではなかったんですけど、ちょっとコロナが終わ

りかけぐらいの頃に加入したので。その時は特典会とか、普通にライブはできるんですけど、やっぱり感染対策として、特典会というファンの方とお話をする機会があるんですけど、そういう時とかにフェイスシールドをしたりとか、ファンの方との間に飛沫防止シートみたいなのを貼ったりだとか、ファンの方が声出しはまだ NG だったりとか、そういう対策はしていました。

栗田氏

なるほどね。やっぱりそういうことでしか我々乗り切れなかったんですけども、SEAMO さんが言われたように、心はやっぱり燃えてたっていうか、心は一緒なんだけど、なかなか具体的な活動ができなかったっていうことを、なんとか乗り越えようとしたって感じですかね。

さらに、あの「紡ぐ」っていう曲を聞かさせてもらって、これまたいいなと思って。皆さん聞かれたと思いますけどね、「かよわき糸は時代をこえて離れた僕らを結び引き合わせ、そして次の物語を織りなす。僕らの未来は僕ら自身で紡ぐ」と、こういう歌ですね。これ実は防災、減災の決意表明の歌じゃないかと思って私は聞いたんですけど、さすがアンバサダー。

(1 : 48 : 23)

SEAMO 氏

ありがとうございます。なんか、先人であったりとか、先輩の方たちが言っていることにはすごく意味があるんだよっていうメッセージを込めて実は作った曲なんです。僕らとかもそうなんですけど、やっぱり年を重ねてくると、なかなか、僕たちの言葉に、若い子たちが耳を傾けてくれなくなってきたりすることもあり。若い子たちには若い子たちの言葉を、伝わりやすいと言いますか、僕はなんかそういうイメージがありまして。だけど、僕らの先輩もそうですし、大人の方たちが言ってることって、何かやっぱり意味が、たくさん生きている方たちなので。なので例えば、糸ということで、服の世界のことを言っていたんですけども、今、新しい科学繊維であったりとか、すごいファストファッションであったり、そういう色んな、便利な、安くて機能性の高い、そういう服とかもあるんですけど、やっぱり先人の方たちがすごくしっかりとした糸の流れとかでこう良い服を作った。その人たちがあったからこそ、今そのレールの上で新しいそういうことができてる。これは音楽の世界でも同じことで、僕たちの先輩の人たちがすごくスタンダードなミュージックで良いものを作ったから、そのラインの中に、僕たちはそういう音楽を引き継いで、また新しいラップという手法の音楽であったりとかいろんなものができてきた。だからすごく先人の方たちを敬うのは大事なんだよっていう、そういうことを僕は

あの歌では、言ってたんですけど、例えば今回のこういうシンポジウムでも、皆さんが言われてることを、すごく僕たちにとってためになるし、あの、なんか口うるさいこと言ってるなってことじゃなくて、これはすごく意味があるんだっていうことを、肝に命じながら、今回も僕はお話聞かせていただいております。

栗田氏

だから、あれか、あの映像見たときに、羊が出てきたんだ。

SEAMO 氏

そうです。はい、そうなんです。その時の歌なものですから。

栗田氏

その背景はともかくとして、この言葉ってすごく大事だなと、今言われたことがほんとその通りで、福和先生も今日、寺田寅彦っていうね、福和先生の大先輩の言葉を引用されて、そして福和節に変えて一生懸命講演された。で、これを、じゃあ若者が全員、じゃあどうやって受け止めるかみたいなことは、SEAMO さんの的には、若者ごとにそれは受け止め方が違うんだと。でもやっぱりあの先人から、今私たちが生きる年代ごとに紡いでいくんだという話ですね。それを僕らは未来を自分たちで決めてこうと、こういう話。いや、素晴らしい。ちょっとダイレクトに、福和なんたらって歌作ってくれませんか。

SEAMO 氏

そんな話いただけるんですか。いつでもやります、はい。

栗田氏

あのね、あの、おたんちんとかのおバカさんとか、そういうのは抜きにして、もう少し優しい言葉でですね、名古屋を鼓舞するような。防災アンバサダーとしてはね、こんなお願いしちゃっていいのかどうか分かりませんが、けど、やっぱりこうして、インフルエンサーとしての能力っていうか、それはもう、福和先生でも、当然限界があるし、私なんかも全然なんで、やっぱりね、あの SEAMO さんと、OS☆U の、それぞれの若者の世代に伝えてほしいなと思いますよね。うん。
OS☆U の皆さんは、SEAMO さんの曲聞かれてどんな印象を持たれてましたか。

(1 : 52 : 06)

夏川氏

この紡ぐということに関してはまたちょっと違うんですけど。私たち OS☆U ももう結成して 14 年目になるんですけど、あの、最近入ったメンバーもいれば、やっぱり私も長く割とやっている方なんですけれども、今までこう、OS☆U というグループをつないできた、紡いできた先輩たちがいて、今の私たちがいるっていうのは、すごくこの世の中とも通じるなって今思いました。

SEAMO 氏

その大先輩と僕、今一緒にラジオをやらせていただいているんですけど。

夏川氏

聞かせていただいております。

SEAMO 氏

紡いでおりますね、我々。

夏川氏

はい、そうなんですよね。私たち自身もそうやって感じるので、やっぱりそのグループでもそうですし、ま、こういった世の中でも、先代の方々から受け継いだものを、今私たちが生きていく社会なので、今、私たちが何か、発信していかなきゃなとは思いました。

栗田氏

頼みますよ。ほんとにね。

香田さん、どうですか。夏川さんは怖い？

香田氏

いや、怖くないです。怖くないです。大丈夫です。

そうですね。今、このコロナ禍は、今は収束しかかっていると思うんですけど、コロナの時期は、人と人との関わりが絶たれてしまったり、そういう中で、SEAMO さんがそういう楽曲を作っていて、そういうところで、やっぱり人と人は心と心で繋がるのが 1 番重要だなと思いました。

栗田氏

その通りだよ。やっぱりね。コロナはまだ終わったわけじゃなくて、5 類に

したってというだけの話であって、実は9月末に私がかかってね、コロナ禍の時は乗り越えたのに、家族全員がかかったのに、私だけかからないとか。濃厚接触者で、普段から濃厚接触じゃないっていう、あんまり家に帰れないとかね、そんなことでもないんだよ。ちゃんと帰るんだけど、まあね、かからなかったって、俺はもう天下無敵だと思ったらダメだったね。40度近い熱出て、2日間ぐらい苦しんで、厄介な病気ですよ。

終わってないからね、うん、終わってないんだけど、やっぱりコロナでできなかったことが、徐々にできるようになってるんだけど、でも、なくなったわけじゃないんで、気を付けなきゃいけないことは最低限あるという話ですね。福和先生、やっぱりパンデミックと災害ってね、一緒に起こりやすいんですよ。

(1:54:55)

福和氏

そうですね。飢きんと感染症って、体が弱って感染症になりますよね。で、飢きんがどうして起きるかっていうと、風水害とか、干ばつだから、どうしても気象災害があると、飢きんが起き、それに伴って感染症が流行るっていうのは、なんか歴史的にはありそうですね。

栗田氏

まあ、そういうことですね。

福和氏

練習ですね、これもね。

栗田氏

そう考えれば、いい練習だと、南海トラフとパンデミックと一緒に来ることもあり得ますからね。

福和氏

これね、十分にあるんですよ。えっとね、さっき言った、9世紀の地震の時は、最初に感染症で、翌年に富士山の大噴火で、その後に、東北の巨大地震が来て、次に、関東の地震が来て、最後が南海トラフ地震でしたね。この時は全部でした。最初が感染症だった。今回もね、東北の震災の後に、ちゃんと感染症来てるし。

栗田氏

ね。嫌ですね。

福和氏

ね、ほんとに。ただ、いいこともあるから。

まあ、感染症のおかげで、できないと思ってたデジタルの会ができるようになったから。だから、遠くの人と仲良くなる 방식을 1 個余分にゲットできたし、必ずしも人がいっぱい集まって住んでなくたって、ちょっと離れたところに住んでいても、まあ、生活できますよね。とってもラッキー。田舎に住んでるじゃん。うん、だから、あの、コロナのおかげで、在宅ができて、あれは幸せでした。

SEAMO 氏

あの、遠隔でと、zoom とかでみんな会議したりなんてことは、急激に、やっぱり進みましたもんね。

福和氏

そうそうそう。で、おかげで、田舎に住めば、毎日ウォーキングができるじゃん。そうするとね、年老いた体も少し元気になるし、

SEAMO 氏

都会でもできなくもないじゃないですか。

福和氏

信号もあまりないし、気持ちがいいですね。あの、自然豊かな方が。田舎はどうですか。

SEAMO 氏

田舎ありですね。

福和氏

だから、みんなで集まって住んでると、関東地震みたいに大変なことになるから、適度に距離を置いていた方がいいですよ。時々ハグもしないといけないけど。でも、それは時々でいいから、毎日じゃなくて。

栗田氏

まあ、そういう福和先生も東京出張増えたんじゃないですか。

福和氏

（出張が増えたのは）嫌ですね。だけど、JR も儲けさせてあげないと。

栗田氏

まあまあ、それはそう。でも、新幹線もだいぶ混んできましたもんね。一時大丈夫かと思うぐらいから。

福和氏

一時、誰もいなかった。

栗田氏

そう、増えたでしょう。増えました。むっちゃ増えてきた。うん、だから、戻ってるんだなっていうことを喜ばしいと思うと同時に、福和先生は家、完璧にきちっとされてますけど、多分東京で被災するんじゃないかなと思ってね、残念だなと思ってますけど。

福和氏

いいんです。家族が無事なら。

（1：58：02）

栗田氏

ということで。あっという間に時間が流れてしまいましたけども。やっぱり、南海トラフに対して何ができるかっていうのは、やっぱり 1 人 1 人が 1 歩 1 歩やっていくしかない。名古屋市が、いい計画を立てていただくということなんですが、でも、主役は市民ですね。

えー、行政が何でもかんでもやってくれるとか。行政がやればそれで全てハッピーだっていうことにならない。やっぱり市民が、それなりのやっぱりこう、自覚を持って、しっかりと備えておく、その時のことをイメージしながら、やっぱりこうですね、大事な人をちゃんと守っていく、そういう、広がりですね。私としては、もっともっと若い人たちに、今日も（会場に）若い人あんまりいないんですよ。

だから、若い人たちに、やっぱりこうね、福和先生もさっき言われましたけど、子どもたちは絶対この地震体験しなきゃいけないということを考えると、それぞれの世代の伝え方はあるんじゃないかということで、冒頭でもお願いしま

したが、ぜひこの防災のいいインフルエンサーにね、なっていただきたいということで、お1人ずつ決意表明をですね、こうしていただいて、終わりにしていきたいと思います。じゃあ、順番最後に、いつもSEAMOさんからでしたから、香田さんからお願いしようかな。

(1:59:21)

香田氏

はい。私はですね、今回のこの、あのお話をさせていただいて、新しく、ホイッスルだったりとか、あと520円だったりとか、そういうのを愛知県、愛知県というか私から始めて、市民の方から始めて、それで若者の方たちにそれが広まって、愛知県全体でこのような対策を広めていけたらなと思っています。私から始めないと、皆さんも始まらないと思うので、自分から発信していくことが大事だなと今回思いました。なので、たくさんみんなに、若者の世代にたくさん知っていただいて、そして、グッズとかも出せたらいいなと思っております。よろしくお願いします。

栗田氏

素晴らしい。いいよ。じゃあ、夏川さん、お願いします。

(2:00:16)

夏川氏

はい、そうですね、こういった、講習会とかにこう、自ら足を運ぶ方々は、逆にもう、防災に対する意識がある方々だと思うので、そういった考えにまだ至っていない人たちもまだ全然たくさんいるなと思うので、そういった人たちに私たちOS☆Uから、何かこう、SNSであったりとか、まあリアルに会った時でも発信していけたらなと思いました。あと、OS☆Uのグッズとして、ちょっとホイッスルなどなど。

栗田氏

あ、いいですね。

夏川氏

作成をしていきたいなと思いますね。そういった人たちがホイッスル持とうと思って買うんじゃないくて、ま、OS☆Uのグッズだから、買おうから始めてみるっていうのはすごくいいなと思ったので、ちょっと始めてみたいなと思いました。

栗田氏

はい、是非お願いします。じゃあ、SEAMO さん、お願いします。

(2:01:12)

SEAMO 氏

はい。なんか僕たちの仕事っていうのは、例えばこういう防災に対することであったりとか、そういうことが、例えば行政の方であったりいろんなそういう有識者の方が言うと、なかなかそのみんながなんか口うるさいこと言ってるなとか、めんどくさいこと言ってるなって、もしかしたら感じることもかもしれないんですけど、僕たちがそういうことで、ミュージシャンとして、アーティストとして、やっぱり歌でやっぱり表現すると、それがメッセージになっていくのかなって思ってるんですよ。なので、やっぱりあの、自分たちはやっぱりこう、ミュージシャンとして、もちろんあの、MC であったりとか SNS であったり、トークもそうなんですけど、やっぱり歌の中でナチュラルにそうやってみんなにメッセージとして、大切な人の命を守るっていうのは、こういうことなんだよってことが、なんかこう、伝えていければいいかな。そういうことを、僕に、僕らにしかできないことを、やっぱり、こう肝に命じて、そういうことをこれからもアーティスト活動の中で織り込んでいきたいなって思いました。

栗田氏

ぜひ、お願いします。はい、ありがとうございます。じゃあ、福和先生、最後、締めていただきたいと思います。

(2:02:18)

福和氏

はい、ありがとうございます。あの、3 人の素敵な方との出会いを作ってくさった、名古屋市の方々に、まずは、感謝したいなと思います。あの、いつも栗田さんと僕はこんな調子でやってるんですけど、新しい 3 人の方が入ってきて、雰囲気ぐっと良くなったんです。で、あの、インフルエンサーって、ほんと影響力あるので、その人たちをおだてる栗田さんの姿っていうのも、なかなか今日は素晴らしくて、栗田さんすごいなと、僕、こっちから見てました。

SEAMO 氏

あと、すごく声がダンディというか、いい声なさってます。栗田さん。

福和氏

あのね、いつもね、はい、これをやってるんです。本業、これなんです。

栗田氏

住職でもあるんです。住職でもある。

SEAMO 氏

だからなんですね。

福和氏

そう、で、人をだますのが得意なんです。

SEAMO 氏

良い詐欺師とおっしゃってましたね。

福和氏

そうそうそう、お説教が。で、上手なお説教でしょ。

SEAMO 氏

はい。

福和氏

で、盛り立てるのも大事でしょ。で、こうやって、栗田さんはたくさん仲間作りをしていって、ボランティア仲間を増やしていくんですよね。で、皆さんも同じで、上手に紡ぐっておっしゃいましたよね。これは人と人をつなげてくっという仕事になるし、いろんなことから、防災だけだったらやる気ないけど、防災と音楽だったらつなげばやる気になるかもしれないし、防災とお金儲けだったらもっとやる気になるし、なんか、そういうふうに繋げるっていうことが大事だなんていうのは、今日改めて思いましたね。で、皆さんは楽曲を作る人じゃないですか。作って、それから繋げて、で、続けるっていう3つの「つ」があると、そうすると防災って結構うまくいくんです。新しいアイデアを作って、上手にみんなを繋げて、長く続けることで、被害を減らして、かつ、若い人たちが不幸せにならず、災害の後にめっちゃくちゃ夢のあるような社会を作る。日本の社会って、いつも災害をうまく乗り越えて、次に素晴らしい社会を作ってきてたんです。それは、我々年寄りじゃなくて、若者の方々が次に活躍

してくれるチャンスにもなるので、上手にお姫様になるかもしれません。女王様になるかもしれないと思って、次の時代が皆さんの時代になるような準備を今しといていただけるといいかなと思いました。

栗田氏

素晴らしい。ありがとうございます。もう最初はどうかと思いましたが、凍るような雰囲気の中でスタートしましたから。最後、先生はですね、作る、つなげる、続ける、3つの「つ」だと。なんか学者みたいなこと言ってましたけどね。先生ね。

福和氏

一応本業はえーと、学者でした。

栗田氏

素晴らしい。ということで、よくまとまりました。是非ですね、若者が是非頑張っていて、でも若者に負けず、それぞれの年代ですることを皆さんと一緒にしていきたいと思いました。本日はどうもありがとうございます。大きな拍手でお送りしたいと思います。

司会

みなさま、どうもありがとうございました。ゲストの方々がどのような防災対策、感染症対策をされているのか、また、つなげることの大切さ、そして感染症や災害にはつながりがあることなど、いろいろな話を伺い、私たちはとても考えさせられた有意義なトークセッションでした。

みなさま、今回ご出演いただいた栗田様、福和様、SEAMO様、夏川様、香田様に今一度盛大な拍手をお願いいたします。

ありがとうございました。以上を持ちましてトークセッションを終了いたします。

(2:06:23)

次に、名古屋市次期総合計画中間案に対する意見聴取に移ります。

これより、これからの名古屋市をどうしていくべきかという観点で、みなさまのご意見、ご提案をいただきたいと思います。

ご意見、ご提案のある方は、まず挙手をお願いいたします。私が指名した方に係の者がマイクをお持ちしますので、できる限りはっきりとご発言ください。できれば、計画中間案のどの部分についてのご発言かを触れてからご発言をお

願いでできればと思います。

ご発言が終わりましたら、マイクを係の者へお返してください。できるだけ多くの方からご意見、ご提案をいただきたいと考えておりますので、お一人様 1 分以内、1 回限りで簡潔にご発言いただきますようご協力をお願いいたします。1 分経過したところで主催者よりベルを鳴らしますので、ベルの合図を目安に発言を終えていただきますようお願いいたします。なお、発言内容は会場にお越しのみなさまだけでなく配信をご覧のみなさまもお聞きになっています。ほかの方を不快にさせたり、誹謗中傷するような表現にならないようお願いいたします。

場合によっては発言途中であってもお止めすることがありますので、よろしくお願いいたします。みなさまからのご意見、ご提案を伺った後に、市からコメントをいたします。

それでは、準備が整いますまで、今しばらくお待ちください。

ここで、市の登壇者をご紹介します。総務局企画調整監の武田 淳（ただ じゅん）でございます。総務局企画部長の塩沢 洋（しおざわ ひろし）でございます。総務局企画部企画課長の渡辺 孝彦（わたなべ たかひこ）でございます。

それでは、どなたかご意見、ご提案のあるかたはいらっしゃいますでしょうか。

それでは、ステージから見て、前方ブロックの右にいらっしゃる、茶色のお洋服をお召しの方、お願いいたします。

参加者①（2：59：55）

感染症対策について提案をさせていただきます。感染症対策は非常に大事なんですけれども、何か今、全体としてみると、例えば病院なんかでも赤字だからけしからんとかですね、そういう形で、名古屋市も保健所が 16 区にあったものを 1 つにして、保健センターにしてしまった。その中で、保健師さんたちも数が減らされていった。全国的に見ると、やっぱり保健所が半分以上になってる、半分ぐらいになってるんですね。で、そういったことがコロナ対策についても非常に手遅れがあったと思うんですね。ですから、医療というのは必ずしも儲けるためにやってるわけじゃないということなんです。やっぱり行政の人たちにしっかりと理解をしていただきたいということを思います。

いざとなった時に対応できる体制を、きちんと確保するっていうことは必須の課題だという風に思ってます。私も医師として時々呼ばれて、いろんなところへ、医療対策で、呼ばれるんですけどね。私が 1 つだけいつも言うことはです

ね、私が今日 1 日暇なのが皆さんにとって 1 番幸せなことですよ。
私が忙しくなって、お前金もらってるんだらうと、金もらってるんだったらそれだけ働け、そんなことを言われると、それは皆さんにとって不幸なんですよということもいつも申し上げてるんですね。
そういう姿勢をぜひ行政の方に持っていただき、次期総合計画の中にもそういう視点を入れていただきたいなという風に思います。以上です。

名古屋市

ありがとうございます。企画課長の渡辺でございます。ご意見ありがとうございます。

感染症、新型コロナウイルス感染症におきましては、医療関係のみなさまに多大なご尽力をいただいているところでございます。この場を借りて御礼申し上げます。また、次なると言いますか、今後の感染症対策っていうところでもありますね、やはり、コロナのことを踏まえて、次の計画の中でもしっかり考えてまいります。また、医療でもありますね、大変重要な問題でございますので、次の計画の中でもしっかり位置付けをしているところでございます。その時にですね、体制のことでもお話をいただきました。これまで、少し縮小してきたのではないかとこのところ、その弊害が出たのではないかとこのところ、ご指摘だったと思っております。今回、感染症の経過を踏まえて、次なる医療、感染症対策っていうところは、見直していく、次につなげていくタイミングでもございますので、この計画の在り方を考える際に合わせて、次なる感染症、新興感染症、再興感染症への備えというものも市としてしっかり考えて、安心、安全をしっかりと守れる体制と、一方で、コストや効率性というところも大事な視点ではありますので、きっちり安全、命ということを最優先にしながら、あの全体としてバランスのいい体制づくりというのもですね、計画の中でしっかり考えてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会

ほかにご意見、ご提案のある方はいらっしゃいますでしょうか。それでは、中央ブロックの左側にいらっしゃる青い服をお召しの方、お願いいたします。

参加者②(2:13:40)

はい、お願いします。南海地震についてちょっとお伺いしたいんですが。僕いろんなこと聞いたんですが、高知県の土佐清水市は、今低い、海拔 3 メートル、5 メートルぐらいの、住んでる方はみんな高台に上がるように条例があってですね、市の設備、学校などはみんな高台に上がってるわけですね、津波対

策として。

だけど、名古屋にそれをせよって言ったら、名古屋市の3分の2ぐらいはしなあかんけど、それはちょっと無理、だと思しますので、こんな意見どうですかと思いますね。市長さんがおっしゃった、高潮防波堤ですよ。あれはもう完全に出来たと、大丈夫だと、台風には大丈夫だということをおっしゃったんですが、でも、津波というのは、僕が聞いた話によりますと、ジャンボジェット機が猛スピードでぶつかってくるぐらいの力だそうです。だから、高潮防波堤では津波は防げないという学者がおられました。ですので、名古屋市は、20メートルか25メートルの津波が来ると言ったら、もう1段下がって、お堀で言ったら内堀、外堀があるように、今、外堀が高潮防波堤、内堀にもうあと100メートルぐらい下がったところで20メートルぐらいのを作っていただきたいということです。

そしてもう1つは、地下鉄。地下鉄は港で高潮が来たら1発で地下鉄がダメになりますね。シンガポールの地下鉄で見たことがありますか。

シンガポールは1,000万人が1ヶ月生活できるような地下鉄になっとるんですね。日本もそういう、津波対策として、もうちょっと対策をしてもらってやらないと、地下鉄がもしダメになったら、おそらく2年か3年ダメになるでしょうね。そんなことをお願いしたい。そして災害時のあの食料の備蓄、市がやりますとか町がやりますとか言いますが、津波が来るところに一生懸命備蓄したって、流されています。だから、市と市と協定して、名古屋市と、例えばあの構造のニュータウンの高台に備蓄するとか、そういう対策も必要じゃないかなと思いますけど。港で一生懸命備蓄したって、津波来たらいっぺんに流れちゃうんですよ。それを、春日井のニュータウンなんかに来てもうと、ありがたいと思いますけど。それだけよろしくお願いします。

名古屋市

ご意見ありがとうございます。南海トラフ巨大地震への備えということでございます。もちろん、私どもでもですね、南海トラフ、いろんなパターンを想定しながら、ハード面、先ほどおっしゃられた、港のところ、あと、地下鉄もそうですけども、ハード面の対策もしっかりしているところでございますけども、ハード、やっぱり限界もあります。なかなかそれだけで対応っていうのも難しいかと思っておりますので、ソフト面ということで、みなさまの取り組みというのも、今日の話もそうでしたけども、重要になってまいりますので、しっかり適切に避難できるよう、我々としても避難していただけるようなハザードマップや日頃の避難訓練とかも大事にしていきたいと思いますし、備蓄の話も、今日も話出しましたが、行政としてもしっかり準備はしていきたいと思いますけども、限

界もございますので、自らも、ご用意いただきたいというところはございます。また先ほど、避難に関しても、津波が来た時にその場で大丈夫かというところもあるかと思います。まずは緊急避難場所とかですね、ハザードマップに沿ってっていうところもございますけども、津波ということではありませんけども、風水害、大規模な風水害の場合はですね、広域的な避難という観点もございます。そうした検討もしておりますので、私どもとしても、風水害も津波も危機意識、危機感を持って、中間案の中、総合計画の中でもきちんと整理をしてみたいと思いますので、みなさまの普段の取り組みの中でも十分な準備をしていただきますようお願いを申し上げます。

司会

それでは、次の方、先ほど挙手をされていた、前方ブロックの左側のブロックにいらっしゃいます。青い服装の方、お願いいたします。

参加者③（2:19:04）

先ほど、ここにあった、名古屋市の中間総合計画ってやつをPDFで見ただけですけども、もうちょっと文章わかりやすくないでしょうかっていうのがあります。なんでだろうなと思うと、まあ読点の「、」で、「～、～、～」ってずっと続いてやっと「。」っていう風になっていて、多分新聞記者さんのような、書く専門の、文章の専門の人に見てもらったら、もうちょっと一般の方が読みやすくてわかりやすい文章になると思いますので、お役所全体に言えますけれど、ちょっとわかりやすくしてほしいっていうお願いです。

名古屋市

ご意見ありがとうございます。ご覧いただいているもの、分かりにくいというご指摘、すいません、分かりにくい内容で、大変恐縮でございます。お手元でお配りしている内容もそうですし、中間案につきましても、最終的な計画としては、来年度に最終案をまとめてまいりますので、ご指摘も踏まえまして、極力、わかりやすい表現、わかりやすい文章ということで心がけてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

司会

それでは、先ほど挙手をされていた前方の左のブロックの真ん中にいらっしゃいますチェックのお洋服をお召しの方をお願いいたします。

参加者④（2:20:51）

計画の 13 ページの都市像の 5 番に関してお話したいのですが、魅力のないまちと言われて久しい名古屋なんですけれども、実際に、名古屋市民にインタビューをすると、どこも行くところがないとか、そういうことをすぐ言うのですけれども、そんなことは全然なくて、素晴らしい色んな見るところもあります。東山動植物園にしても水族館にしてもすごいんですけど、名古屋の子どもたちはあれが標準だと思ってしまっているの、あのすごさがわかってないと思うんですね。やっぱり小さい時から、総合学習とか何か他の授業で、もっと名古屋というものはどんなまちなのか、もっと名古屋はどんな素晴らしいところがあるのか、そういうことをもうちょっと教育した方がいいんじゃないかと思うんですね。

名古屋の人はダメダメって言ってるけれども、ワシントンポストが京都と並んで名古屋を選んでますよね。でも、それだってあんまりみんな知らなくて、なんだかもったいないことをしてるなってすごく思うんですよ。盛岡なんかはすごく今それで元気になっているということを聞くので、せっかくそこに世界でも選ばれたんですから、もうちょっと子どもたちにも名古屋市民にも、すごいということを教育してほしいなと思います。

名古屋市

はい、ご意見ありがとうございます。もうその通りだと思います。魅力的なところがたくさんあると思っています。ここは我々行政としてもしっかり PR をしてこれていなかったところだと思っておりますので、そういう魅力の情報発信というところは、もうちょっと今更ながらで恐縮ではあるんですけど、今回も契機としてですね、しっかりプロモーションというところはやっていきたいと思っています。また、今ご意見いただきました子どものうちからのそういう教育、しっかり地元の良さに気づいて愛着を持ってということは本当に大事なことだと思っておりますので、またそうした子どもたちが大人になって、地元の良さもわかりながら、外に向かって発信していただけるようになるようにしていきたいと思っておりますので、我々として、しっかり PR していくのももちろんですが、そうした市民のみなさまや、子どもたちといったところにも、魅力を認識していただいて、そこで発信していただけるような取り組みっていうところも、進めてまいりたいと思いますので、どうもありがとうございました。

司会

まだまだ、ご意見、ご提案もあろうかと思いますが、予定時刻を大幅に超過しておりますので、申し訳ございませんが、あとお 1 人とさせていただきます。

ご協力お願いいたします。

それでは前列の中央にいらっしゃる方、お願いいたします。

参加者⑤（2：23：49）

ありがとうございます。私、高校生として、防災に関わっているものなんですが、現在、学校において、防災教育というものがあまりされていないように感じていて、少し、名古屋市全体として、そのような防災教育だとか、防災について、何か周りに伝えるような機会を作ってみてはいかがでしょうか、というような提案です。あと1つ、現在防災訓練っていうのは、多分区などでは行われていると思うんですけども、その防災訓練っていうのも、近年ちょっとマンネリ化しつつあって、あまり防災訓練の意味をなしていないと感じているんですね。なので、市全体として、また新しい、現実味のあるような、災害として現実味のあるような、防災訓練っていうのを実施してみteはいかがでしょうか、というような意見です。ありがとうございました。

名古屋市

はい。貴重な意見ありがとうございます。大変高い意識を持っていただいているにも関わらず、多分そういう教育とかですね、普段の中であまり防災に触れる機会がないというところで、ちょっと申し訳なく思っております。学校の中でもですね、一応のメニューはあると思うんですけども、そこがですね、広く学生さん・子どもさんたちの意識を変えていくっていうところにはまだ至ってないのかなということで、道半ばなのかなとも思っております。本当にあらゆる世代の方にですね、防災意識をもっていただいて、行動に移していただくということが大事だと思っておりますので、学校教育の場も含めてですね、今1度その防災啓発というところは計画の中でも考えていきたいと思っております。また、防災訓練につきましてもマンネリではないかというお話でございました。防災訓練自体はですね、地域のみなさまを中心に熱心に、やっていたいてるところではあるんですけども、おっしゃられる通り防災の内容はですね、日々刻々と変わりますし、配慮すべき事項もですね、どんどん広がっている状況ではありますので、時代に合わせてですね、どんどんブラッシュアップしていかないといけないというのは、ご指摘の通りだと思っておりますので、少し今1度ですね、防災担当部署とも共有をいたしまして、取り組みの部分で改善できるところはしてまいりますし、そうしたところを次期総合計画の中でも考えていきたいと思っておりますので、ご意見ありがとうございました。

司会

それでは、まとめのコメントをお願いいたします。

(2:26:36)

名古屋市

皆さん、長時間にわたり、今回のシンポジウムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

今回いただいた意見、様々意見いただいているところでございます。まだ意見表明する機会がなかった方、あるいは今、発言はちょっと、という方に関しましては、配布しております意見募集の紙がありますし、それ以外でもですね、いつでも私どもの方の担当部署に言っていただければ、意見として受けさせていただきます。そちらを踏まえまして、次期総合計画、より精査してまいります。まだまだ、今回は防災ということでございましたけれども、次回以降も、まだ2回ほどシンポジウムございますので、引き続きご参加をいただきまして、みなさま方からの意見をいただければ幸いです。本日は本当に貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

司会

会場のみなさま、配信をご覧のみなさま、長時間にわたりありがとうございました。

本日ご発言いただけなかったご意見、ご提案は、お配りしている意見用紙にご記入の上、出口付近の回収箱に入れていただきますようお願いいたします。

また、アンケート用紙につきましても、お手数ですが、ご記入の上、出口付近の回収箱に入れていただきますようお願いいたします。

なお、中間案に対するご意見、ご提案は後日お寄せいただくことも可能です。12月25日まで、郵送、メール、fax、webにて募集しております。詳しくは、本日お配りした中間案概要版の裏面をご覧ください。

配信をご覧のみなさまも、概要欄にアンケート回答フォーム・ご意見募集フォームへのリンクをご用意しておりますので、ぜひご回答よろしくお願いいたします。

最後に、次回シンポジウムのご案内をさせていただきます。次回シンポジウムは、11月7日火曜日18時から名古屋市芸術創造センターにて開催いたします。今回同様、会場での開催に加え、同時生配信と後日録画配信を行います。会場参加をご希望の方は、現在先着順でお申し込みを受け付けております。

お申し込み期限は10月23日月曜日までです。

詳しくは、区役所支所等で配布しているチラシや名古屋市公式ウェブサイトをご覧ください。

それでは、以上を持ちまして名古屋市次期総合計画シンポジウムを終了いたします。本日は誠にありがとうございました。みなさま、お気をつけてお帰りくださいようお願いいたします。

なお、会場の利用時間がございますので、10分後をめぐりましてご退場完了できるようご協力をお願いいたします。